

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 南魚沼市立大巻中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒949-7103

新潟県南魚沼市大杉新田 416-2

E-mail oomaki-jhs@minamiuonuma.ed.jp

Website http://www.minamiuonuma.ed/~oomaki-jhs

幼児児童生徒数 男子 61 名 女子 39 名 合計 100 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、今年度閉校するにあたり、「大巻中学校の最後を飾ろう」を合い言葉に教育活動に取り組んでいる。学校は、それぞれの地域にとって心の拠り所である。その学校がなくなること、生徒、多くの卒業生、地域の方々や関係者にとってはとても残念なことである。大巻中学校という学校がなくなっても、関係者の心の中にいつまでも大巻中学校が残るような取組を進めている。特に、新潟県の学校教育の重点でもある「地域とともに歩む学校づくり」に重点を置いている。

具体的には、①地域との連携、②国際理解、③平和と人権、④防災教育を行った。

①地域との連携、ひまわりプロジェクト

当校のシンボルは「ひまわり」である。校章のデザインに使われ、校歌の歌詞にも歌われている。大巻中学校をいつまでも忘れないために、大巻中学校区をそのシンボルであるひまわりいっぱい地域にしようという活動である。

校内の畑に多くのひまわりを植え育てた。その種を地域の全戸に手紙を添えて配布した。手紙には、「いつまでも大巻中学校を忘れないために、この種を植え、育ててください。」と書かれている。来年は多くのひまわりが地域を飾るであろう。

また、5 月には手紙を付けてバルーンリリースを行った。その手紙には、「ひまわりプロジェクトを実施しています。この手紙を拾われた方、お手伝いいただけ

ませんか。」と書いた。その後、遠く山梨県から連絡をいただき、種をお届けした。

8月には地域と連携して廃品回収を行った。地域の恒例行事にもなっており、多くの地域の皆様からご協力いただいた。生徒はリサイクルの有効性について実体験を通して学んだ。

②国際理解

英語の授業で、ALTとのコミュニケーション活動等を通じて、アメリカや海外の異文化理解を行った。デジタル教科書を積極的に活用し、できるだけ映像で見せるようにした。

毎年、市の中学生海外派遣に参加している。今年度も1名参加した。

③平和と人権

学期に1回「同和授業週間」を設定して、人権、同和について授業を進めた。人権同和主任を中心に、学習する内容、教材を決定し、学習を進めた。

夏季休業中に、中学校区の職員の取組として、同和に関する研修を実施した。同和についての知識と経験をもった外部指導者を招聘し、研修した。演習活動も取り入れた研修となり、その後の授業及び指導に生かしている。

当校は小規模校であり、小学校も2校の小規模校から進学してくる。そのため、幼少期からずっと一緒に過ごしている生徒が多く、仲が良い反面、お互いを尊重したり、思いやったりすることができないことがある。日常の学校生活の中で、社会性を育成する活動や取組を今後も継続していく。

④防災教育

総合的な学習の時間に、「新潟県防災教育プログラム」を活用し、防災教育を行った。指導項目、内容が防災教育の年間指導計画に位置づけられている。特に、新潟県は、2度の大地震、今年度のような雪害と大きな災害を経験している。そこで、生徒に危険回避能力を身に付けさせることといざというときに、地域の担い手として活動できるようにするにはテーマに学習に取り組ませている。身近な話題でもあり、生徒は話し合い活動などを通して、対応の仕方について考えを深めつつある。



①の写真（ひまわりプロジェクト）



①の写真（バルーンリリース）



①の写真（廃品回収）



③の写真（道徳研究授業）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|--------------------------------------|---|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・新潟県防災教育プログラム・「私たちの道徳」(文部科学省)・「生きるIV」(新潟県同和教育研究会編)・NEW CROWN ENGLISH SERIES (三省堂) デジタル教科書 |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

校長の経営方針に「豊かな人間性と社会性をはぐくむ質の高い集団づくり」が掲げられている。小規模校であるが故のお互いがよく知り合っている利点と変化のない人間関係の中で、自分を表現できなかつたり、成長に伴う考え方や行動の変化をお互いに理解できず、トラブルを巻き起こすこともある。これから広い世界で活躍する人材育成のため、様々な人との関わりや活動、ペアや小グループで考えを高め合えるように、活動を工夫している。

授業では「関わり合い授業」を目指し、様々な考えを出し合い、話し合い、高め合うためにどうしたらいいかをテーマに授業改善を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

小規模校の利点を生かし、全職員で共通理解を図り進めている。月1回の職員会議だけでなく、毎週の運営委員会、生徒指導部会、週4日の朝の打ち合わせで生徒情報や指導方針や指導方法について共有して指導に当たっている。

また、1人に任される校務分掌が多いので、お互いに声をかけ合い、助け合いながら指導を進めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価については、年2回、生徒、保護者、教職員からのアンケートを行い、その結果を教職員で検証、分析する。その結果を学校関係者評価会議に提案し、違う視点からの検証も加え、その後の教育活動に生かしている。

現在の成果は、様々な活動をとおして大巻中学校としての絆が深まっていること、課題は家庭学習、規則正しい生活習慣、メディア接触コントロール等家庭生活に関わるものが多い。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校の様々な活動は、毎週の各学年だよりと毎月の学校だよりで、保護者だけでなく、学区内の全戸に配布し、発信している。たよりにより、地域からの学校に期待するものが大きく、物心両面で支えていただいている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域と関わる行事については、地域の開発センターの支援を得て進めている。また、生徒の指導については、市からの補助員の配置と関係機関、特に子ども若者支援センターとの連携により、個々の生徒への指導を充実させている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度、特に他のユネスコスクールとの交流、ネットワーク形成は行っていない。ただし、配信されているメールでの情報には目を通し、必要に応じて紹介されているホームページの内容を参考にしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

今年度、閉校、統合により忙しい日々を送っており、ユネスコスクールとしての意識や取組を充実させることができなかった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

当校、29 年度末をもって近隣の城内中学校、五十沢中学校と統合し、閉校する。30 年度は、南魚沼市立八海中学校として新しくスタートする。統合する他の 2 校はユネスコスクールの活動をしておらず、八海中学校として継続するかは未定である。